



令和7年12月15日（月）
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
1年 学年便り 冬休み&1月号

仲間の「しあわせ」をよろこぶ温かな雰囲気

先日はお忙しい中、教育相談にお越しいただきありがとうございました。お子様の学校での様子やご家庭での思いを共有する中で、あらためて子どもたち一人ひとりの成長を実感することができました。今後も学校と家庭が同じ方向を向き、「しあわせ」の子どもたちを温かく見守っていかれたらと思っています。

さて、最近は学年名「しあわせ」に込めた我々の願いの一つである「**自分のしあわせだけでなく、仲間のしあわせも大切にする優しさ**」が様々な場面で子どもたちによって具現化されていることを担任として嬉しく思っています。ここで一つ紹介させてください。

A子さんは、授業の中で自分の思いや考えを伝えようと手を挙げる一方、指名されて多くの視線が集まると、つい涙が込み上げてきてしまい言葉が上手く出てきませんでした。A子さんはその壁を乗り越えようと、何度も発表に挑戦し続けていました。そんなA子さんの頑張る姿に周りの子たちも気づき始め、A子さんが指名されると「大丈夫？言える？」「がんばって！」「隣の〇〇くんが代わりに読んであげたらどう？」と温かく支えようとする声が多方向からあがるようになりました。中には「そうやって話しかけちゃうから喋れないんじゃない？静かにまってあげようよ」と発表しやすい雰囲気を作ろうと学級に働きかける子どもの姿もありました。そんな中、国語『くじらぐも』の音読発表会を屋上でやった日のことです。私が発表を終えた子どもたちへ「感想ある人いますか？」と聞くと「はいっ！」と勢いよくA子さんの手が挙がりました。「言えるかな？」と期待を込めて指名をすると、A子さんは「みんな、お話の様子が伝わるように頑張っていたね」と、自分の感想をすらすら話し始めました。ほんの一瞬の出来事でした。それでも学級の子どもたちは「A子ちゃんが言えた！」「すごい！泣かなかったじゃん！」と見逃さずに、その成長を喜んでいました。翌日、ある子の日記が『A子ちゃん』というタイトルで書かれていました。中には「A子ちゃんが一人で感想を発表していてすごいと思ったよ。みんな成長しているんだね」といった内容が絵とともに温かく書かれていました。A子さんのお母様には、先日の教育相談でこのことをお伝えすると「実は…家でも聞いてます！今日は先生にそれをお話ししようと思っていました。その日、本当に嬉しかったらしく自分からたくさん話してくれました。家でもたくさん褒めてあげました」とお話ししてくださいました。A子さんの踏み出した一歩を、学校と家庭が一緒に喜び合えた「しあわせ」な時間でした。

なぜA子さんは一人で発表することができたのでしょうか。屋上という開放感のある環境だったことだけではないと私は考えます。学級の仲間や家庭がA子さんの頑張りをここまで温かく支えてきたことがA子さんにも伝わり、自信や勇氣となったのではないのでしょうか。我々の願う「**自分のしあわせだけでなく、仲間のしあわせも大切にする優しさ**」は附属小の教育目標である「自らをきりひらく子」に必要不可欠です。だからこそ2026年も職員一同、子どもたちのこのような姿を価値付け、さらに育てていかれたらと思っています。本年は大変お世話になりました。附属小での初めての冬休みが始まります。毎日一生懸命なしあわせの子どもたちですが、肩の力をちょっぴり抜いて、冬休みだからこそできることを楽しみ、自ら楽しい冬休みをつくり上げていってほしいと思います。よいお年をお迎えください。

